

明治元年十一月十五日より明治元年十一月十九日まで

P8310802right

山本、渡辺、富沢より栄蔵へ残銀手当銀等心附有し、御方於いても別段手当等遣す、本日当地立払の積の処、強雨に付尺合させ、大助序を頼み仮調所□光院へ印紙短冊を届出せし処、猶式数可出旨にて持帰る、旅亭主人並山梨佐を享す、御□中の謝と水車取建周旋を頼むによる

十五日子 晴

大助を頼に昨の短冊を猶出す、栄蔵を帰府せしむるに付、上総へ雁書、山本、富沢よりの書□□藤山へ

一書(書林開店の業也)山梨より頼れ状一通でも届け方托し遣す、山本奴へ着賀手当を兼て一小額を

投す、渡辺へ着賀江連鵜飼へ尋問として行く、鵜飼来る一杯を勧む亭主人山梨伝す

十六日丑 陰漸晴

P8310802left

飯塚幸来問ふ、□□匠町山本屋敷一見に行、太郎を伴い大助同道、広沢順来りし旨、田中より山下泉来り問う、近日沼津の方移居の趣、留函役御廢しにて生徒に成るによる故なりという

十七日寅 晴風雪一耗

野口保来り問小品持来、中原村水車地一見に行く土人の説を聞き中途より帰る

十八日卯 晴

寒度 四十八度(撰氏 8.9度)

近辺散歩

十九日辰 晴

(旅亭主人より)手製金山寺漬、其分些少の酒肴を贈らる、漬物は山姑へ分与す、野口広沢並土屋留を尋問す、旅亭主人並大助途中迄同道す

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。